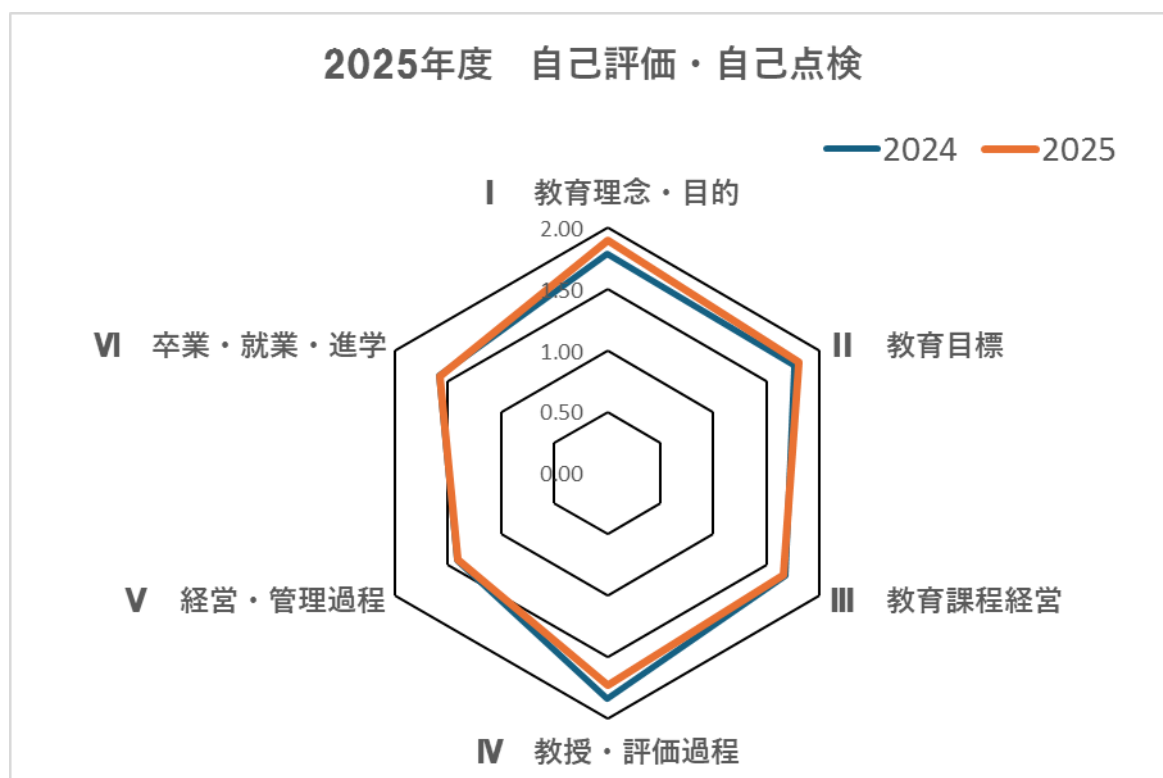


2025 年度 学校自己評価

昨年度より、厚生労働省が策定した「看護師等養成所の教育活動等に関する自己評価指針」に則り、学校自己評価を実施しています。卒業生に対して実施した教育評価（満足度・到達度）のアンケート結果とあわせ評価し、学校運営上の課題を明確にしましたので、今後の改善につなげるとともに、外部委員の参画による意見を取り入れ、受益者である学生の学習環境改善に努めて参ります。

【評価尺度】 3：よく当てはまる 2：大体当てはまる 1：当てはまらない

I	II	III	IV	V	VI
教育理念 教育目的	教育目標	教育課程 経営	教授・学習 評価過程	経営 管理過程	卒業・就業 進学
1.90	1.80	1.66	1.73	1.14	1.58



I 教育理念・教育目的		
1	卒業時点において育成する看護師等がどのような資質を有しているのかが明示され、その資質が、社会に対する看護の質を保障するのに妥当であるか	2.50
2	育成する看護師等の質を保障するために、どのような教育内容、教育方法、教育環境を整えようとしているのかについて述べているか	1.75
3	看護、看護学教育、学生観について、教師の教育活動の指針になるように明示され、実際に指針となっているか	1.25
4	教育理念・教育目的は、学生にとって学習の指針になるように具体的に明示され、実際に指針となっているか	1.75
5	自養成所の教育上の特色を示し、かつそれは法との整合性があるか	2.25
		1.90
II 教育目標		
6	看護実践者としての能力を育成する側面と、学習者としての成長発達を促すための側面から教育目標を設定しているか	2.25
7	教育目標は、設定した教育内容を網羅し、かつ最上位の目標として、教育活動のゴールが読みとれるものとして示しているか	1.75
8	卒業後の継続教育の考え方を示した上で、看護基礎教育として、教育目標を設定しているか	1.75
9	教育目標において、目標内容と到達レベルが対応し、具体的で実現可能な目標として明示しているか	1.50
10	教育理念・教育目的と教育目標が一貫しているか	1.75
		1.80
III 教育課程経営		
11	教育課程編成者と教職員全体は、教育課程と授業実践、教育の評価の関連性を明確に持ち、教育理念・教育目的の達成に向けて一貫した活動を行っているか	1.50
12	教育課程は、看護学の内容、求める学修の到達および学生の成長発達について明確な考え方と根拠をもって編成しているか	1.50
13	科目構成、単元構成の考え方と根拠を明確にして構成され、その考え方は教育理念・目的、教育目標との整合性をもち、構成された科目は看護実践者を育成するのに妥当であり、かつ養成所の特色をあらわしているか	1.50
14	単位履修の方法とその制約が教師・学生の双方がわかるように明示し、その方法が学生の単位履修の支援となっているか	1.25
15	科目の配列は、単位履修と看護実践者になるために養成所が設定したその質を維持して修得できるような配列になっているか	1.75
16	単位認定の基準（設定）および方法において、看護専門職に必要な学修を認めるものとして十分に根拠があり、また、妥当であるか	2.25
17	他の高等教育機関と単位互換が可能な体制を整えているか	2.00
18	教育課程を評価する体系が整っており、また、結果の活用においての倫理的規定が明確になっているか	1.25

19	担当科目や担当時間数の関連から、教員の専門性が活かされ、授業準備に関する時間が保障され教員の専門性を教授できる体制を整えているか	1.00
20	教育課程の運営の実践者である教員が自ら成長できるための相互研鑽、自己研鑽のシステムを整えているか	1.00
21	臨地実習施設は、養成所の教育理念、教育目的、教育目標を理解し、学生の看護実践の学習を支援する体制を整えているか	2.00
22	臨地実習指導における学生の学びを保障するために、臨地実習指導者と教員がそれぞれの役割を明確にし、協働体制を整えているか	2.00
23	学生からケアを受ける対象者の権利を尊重するための考え方を明示し、学生への指導を計画的にしているか	2.50
24	臨地実習における学生が関係する事故を把握、分析し、安全教育、安全対策を計画的にしているか	1.75
		1.66
IV 教授・学習・評価過程		
25	当該授業の内容は、教育課程との関係において当該学生のための授業内容のまとまりとして考えているか	1.50
26	授業内容のまとまりづくりの考え方は、科目目標との整合性を踏まえて明確に述べているか	1.75
27	授業内容のまとまりは、看護学の教育内容として妥当性がある内容となっているか	2.00
28	当該授業内容と他の授業内容との関連において、重複や整合性、発展性などについて明確になっているか	1.25
29	履修形態（講義、演習、実験、実習）は、授業内容のまとまりづくりに応じた形態を選択しているか	1.75
30	授業展開に用いる指導技術についての考え方を授業計画等に明示し、実践しているか	1.75
31	当該授業の展開過程の他に、学生の学習が深化、発展するための方法を意図的に選択し、学習を支援しているか	1.75
32	学生に対し効果的な教育指導を行うにあたり、教員間でどのような協力体制で行っているか	1.75
33	評価と指導の表裏一体性を踏まえた評価計画が立案・実施され、評価結果は、実際に授業が改善されているか	1.50
34	可能な限り、学生および教育活動を多面的に評価するために、多様な評価の方法を取り入れ、目標の達成状況を明確に捉えているか	1.50
35	評価の方法について、特に単位認定のための評価については、学生に公表（認定基準等）し、公平性があるか	2.50
36	シラバスの提示や学習への指導は、養成所全体としての一貫性をもって、学生の学習への動機付けと支援になっているか	1.75
		1.73

Ⅴ 経営・管理課程		
37	養成所の設置、教育理念、教育目的、教育課程運営、教育評価、および養成所の管理運営に関する管理者の考え方を、設置者の意思との一貫性を持って明示し、かつ教職員は理解しているか	1.23
38	組織体制は養成所の教育理念・目的を達成するために意思決定のシステムや権限、役割機能が明確であり、かつ組織構成員の意思の反映や決定事項を周知できるように整えているか	1.15
39	組織の構成と教職員の任用、および、教職員の資質の向上についての考え方と対策は、教育理念・目的を達成するために整合性を持っているか	1.15
40	養成所の財政基盤をどのように確保しようとしているかについて明確な考え方をもち、学習・教育の質の維持・向上につながるようになっているか	1.38
41	教職員は、養成所がどのような財政基盤によって成り立っているかを理解し、それぞれの観点から財政についての意見を経営・管理過程に反映できるようになっているか	1.23
42	学習・教育環境について、管理者としてどのような考え方をもち整備しようとしているかを示し、その考え方に基づいて整備計画を立案し、実施しているか	1.31
43	看護の専門職教育に必要な施設設備を計画的に整備し、また、医療・看護の発展や学生層の変化にあわせて、整備・改善できるようになっているか	1.62
44	学生および教職員にとっての福利厚生施設設備は、養成所が設置されている地域環境との関連から検討し、学生生活や教職員の職務が円滑に遂行できるように整備しているか	1.31
45	学生が入学後に学修を継続できる支援体制を多角的に、かつ学生が活用しやすいように整え、実際に学生生活の支援になっているか	1.62
46	教育・学習活動に関する関係者への情報提供を行うことによって、その協力・支援を得ているか	1.77
47	広報活動は、看護専門職を育成する機関として、その存在を十分にアピールし、かつ社会的説明責任を果たす内容と方法になっているか	1.77
48	養成所の運営は明確な将来構想の基に、中・長期計画、短期計画、毎年の運営計画・実施・評価は整合性をもっているか	1.25
49	自己点検・自己評価の意味と目的を理解し、実際に自己点検・自己評価を行うための知識と方法を明確に持っているか	1.54
50	養成所の自己点検・評価体制を整え、運用し、その機能を養成所のカリキュラム運営、授業実践にフィードバックし、養成所の教育理念、目的、目標を維持・改善しているか	1.46
		1.41

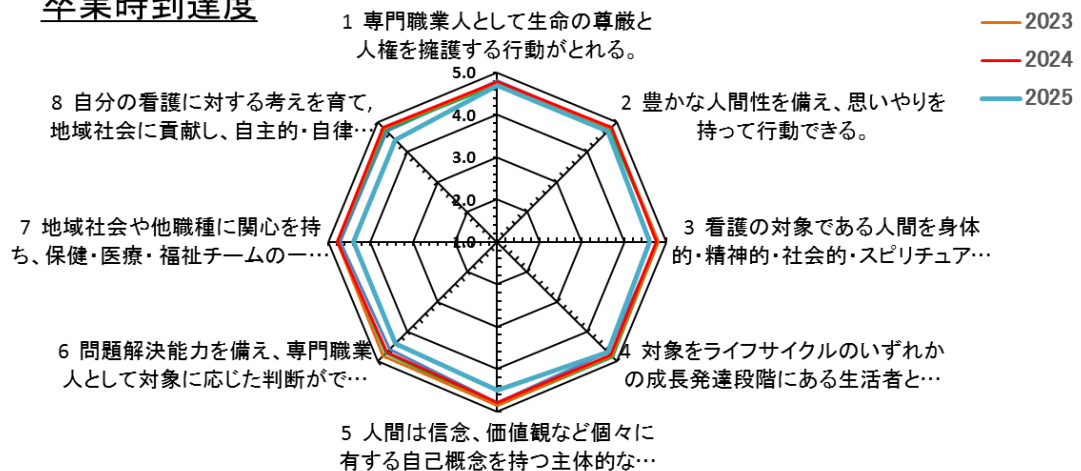
VI 卒業・就業・進学		
53	卒業生の到達状況、就職・進学状況を分析した結果は、教育理念・教育目標と整合性があるか	1.85
54	卒業生の就職先での評価を把握し、問題を明確にし、教育を改善するために、就職先との情報交換や調査の実施などができる体制が整っているか	1.33
55	卒業生の活動状況を把握し、統計的に整理し、教育理念、教育目標、授業の展開に活用しているか	1.54
56	卒業時の到達状況を捉える方法が明確であり、それを計画的に行っているか	1.62
		1.58

卒業時到達度アンケート調査結果

2021年度120名(4名) 2022年度106名(14名) 2023年度112名(16名) 2024年度104名(27名)
2025年度83名(50名)
()は未回答数

	教育評価(卒業時到達度)	2021	2022	2023	2024	2025
1	1 専門職業人として生命の尊厳と人権を擁護する行動がとれる。	4.8	4.7	4.8	4.8	4.7
2	2 豊かな人間性を備え、思いやりを持って行動できる。	4.8	4.8	4.8	4.8	4.7
3	3 看護の対象である人間を身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面を持つ存在として理解できる。	4.8	4.8	4.8	4.8	4.6
4	4 対象をライフサイクルのいずれかの成長発達段階にある生活者として理解できる。	4.7	4.8	4.8	4.8	4.7
5	5 人間は信念、価値観など個々に有する自己概念を持つ主体的な存在として生活していることを理解できる。	4.8	4.9	4.9	4.8	4.5
6	6 問題解決能力を備え、専門職業人として対象に応じた判断ができ、看護実践ができる。	4.6	4.7	4.8	4.7	4.4
7	7 地域社会や他職種に関心を持ち、保健・医療・福祉チームの一員として貢献できる。	4.7	4.8	4.8	4.8	4.4
8	8 自分の看護に対する考えを育て、地域社会に貢献し、自主的・自律的に看護を学び実践できる。	4.7	4.8	4.8	4.8	4.4
全平均		4.74	4.78	4.80	4.78	4.55
5:到達できた 4:少しできた 3:どちらともいえない 2:あまり到達できていない 1:全く到達できていない						

卒業時到達度



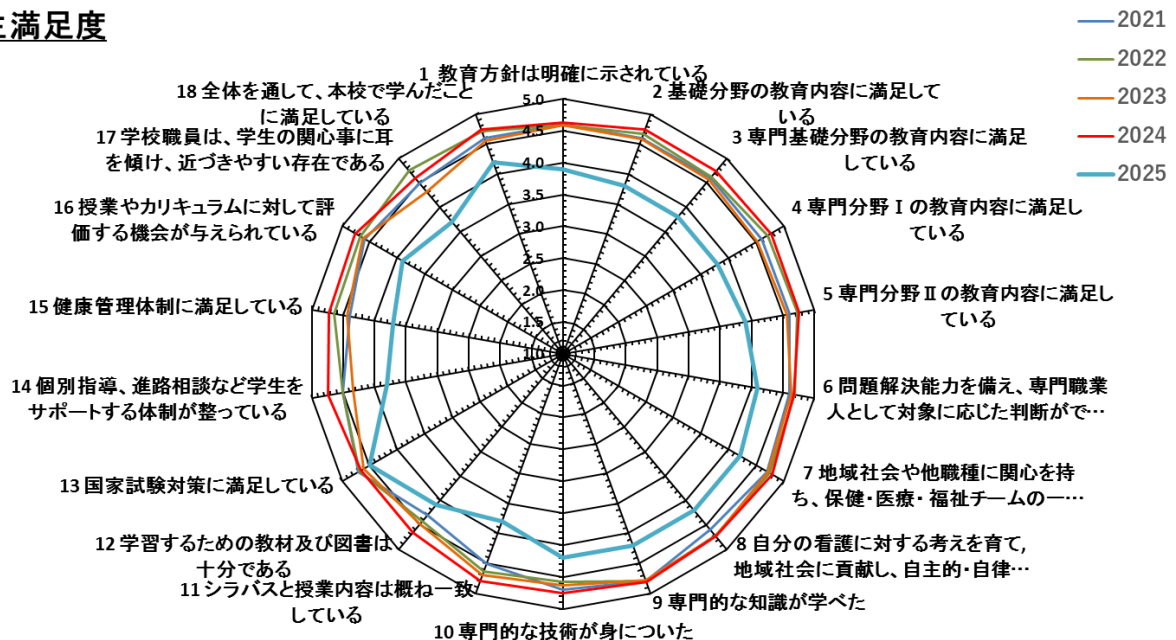
卒業生満足度アンケート調査結果

2021年度120名(4名) 2022年度106名(14名) 2023年度112名(16名) 2024年度104名(27名) 2025年度83名(50名)
()は未回答数

	教育評価(卒業生満足度)	2021	2022	2023	2024	2025
1	教育方針は明確に示されている	4.6	4.6	4.6	4.6	3.9
2	基礎分野の教育内容に満足している	4.6	4.7	4.6	4.8	3.8
3	専門基礎分野の教育内容に満足している	4.6	4.6	4.6	4.7	3.8
4	専門分野Ⅰの教育内容に満足している	4.6	4.7	4.5	4.8	3.8
5	専門分野Ⅱの教育内容に満足している	4.6	4.7	4.6	4.8	3.9
6	問題解決能力を備え、専門職業人として対象に応じた判断ができ、看護実践ができる	4.6	4.7	4.6	4.7	4.1
7	地域社会や他職種に関心を持ち、保健・医療・福祉チームの一員として貢献できる	4.7	4.7	4.7	4.8	4.2
8	自分の看護に対する考えを育て、地域社会に貢献し、自主的・自律的に看護を学び実践できる	4.6	4.7	4.7	4.7	4.2
9	専門的な知識が学べた	4.8	4.8	4.8	4.8	4.2
10	専門的な技術が身についた	4.7	4.6	4.6	4.8	4.2
11	シラバスと授業内容は概ね一致している	4.5	4.6	4.7	4.8	3.8
12	学習するための教材及び図書は十分である	4.3	4.4	4.5	4.7	4.1
13	国家試験対策に満足している	4.7	4.7	4.6	4.7	4.5
14	個別指導、進路相談など学生をサポートする体制が整っている	4.5	4.5	4.3	4.7	3.8
15	健康管理体制に満足している	4.4	4.6	4.4	4.7	3.7
16	授業やカリキュラムに対して評価する機会が与えられている	4.6	4.7	4.6	4.8	3.9
17	学校職員は、学生の関心事に耳を傾け、近づきやすい存在である	4.5	4.8	4.3	4.6	3.7
18	全体を通して、本校で学んだことに満足している	4.6	4.7	4.6	4.7	4.2
全平均		4.58	4.66	4.58	4.73	3.99

5:大いにそう思う 4:そう思う 3:どちらともいえない 2:ややそう思う 1: 思わない

学生満足度



I 教育理念・教育目的：1.80

卒業生の満足度アンケート結果は「1 教育方針は明確に示されている：3.9」であり、昨年度までよりも0.7点低くなっている。教育理念・教育目的の伝達は例年通り行っており、学生便覧にも明記しているが、アンケートの回答率が39.8%と低いことが数値に影響していると考ええる。年々、回答率が低下しており、問題がなければあえて感想や意見を伝える必要性を感じていないのではないかと考える。来年度は、学生にアンケートの必要性和協力してほしい旨を説明する必要がある。

II 教育目標：1.80

卒業生の到達度アンケート結果は、4.4～4.7であり、平均点は4.55であった。例年より、やや低値となっているが、特に問題はないと考えるため、今後も、学生の主体性を重視して関わっていき、看護実践者のための育成と学習者としての成長発達の支援に努めていきたい。

III 教育課程経営：1.66

卒業生の満足度からは「2～5 基礎分野・専門基礎分野・専門分野の教育内容に満足している：3.8～3.9」であり、昨年度までよりも0.9から1.1点低くなっている。昨年度までのシラバスや講師・教員の変更はほとんどない状況であり、学生の到達度の結果には差がほとんど変わらないため、原因としては学生にあった学習方法を検討しなければいけないのではないかと考える。そのため、来年度は、看護国試専門予備校講師の授業を数名組み入れており、満足度の推移を見ていきたい。また、回答率の低下も結果に影響を与えていると考えるため、来年度は、学生にアンケートの必要性和協力してほしい旨を説明する必要がある。

教員の自己評価の低い項目として、「19 授業準備に関する時間が保障され教員の専門性を教授できる体制：1.00」「20 教員が自ら成長できるための相互研鑽、自己研鑽のシステム：1.00」であり、相互研鑽、自己研鑽の体制作りが今後の課題であり、改善するには教員の増員が必要であると考ええる。

実習に関しては、21～24の教員の自己評価は、1.75～2.50であり、「21 臨地実習施設は、養成所の教育理念、教育目的、教育目標を理解し、学生の看護実践の学習を支援する体制を整えている：2.00」

「22 臨地実習指導者と教員がそれぞれの役割を明確にし、協働体制を整えている：2.00」「23 対象者の権利を尊重するための考え方を明示し、学生への指導を計画的にしている：2.50」であり、今後も実習の計画に沿って、臨地実習指導者と教員が連携を図りながら学生の学びを深めていきたい。

また、「24 臨地実習における学生が関係する事故を把握、分析し、安全教育、安全対策を計画的にしている：1.75」であり、学生のインシデントに関しては、学生と教員にレポートを提出してもらい分析を行っている。しかし、教員全体に教育や対策について計画的に実施できなかったため、来年度は周知できるように計画的に取り組む必要がある。

IV 教授・学習・評価過程：1.73

授業に関する卒業生の満足度アンケート結果は、「13 国家試験対策に満足している：4.5」であるが、「14 個別指導、進路相談など学生をサポートする体制が整っている：3.8」「17 学校職員は、学生の関心事に耳を傾け、近づきやすい存在である：3.7」の結果となった。今年度は、学生の主体性を育てるために、登下校時に行っていたホームルームを無くし、インフォクリッパーというツールから情報を自分で確認できるように行ったことが影響していると考ええる。しかし、学生が自分から情報を得て行動できるように社会性を育てる意味でも、今の体制を継続していきたいと考えている。

教員は、「31 学生の学習が深化、発展するための方法を意図的に選択し、学習を支援している：1.75」「32 教員が協力体制で行っている：1.75」とあるため、教員間で協力体制が概ね図れており、学習支援に努めていると考える。

評価に関しては、卒業生の満足度アンケート結果は、「16 授業やカリキュラムに対して評価する機会が与えられている：3.9」であり、教員は、「35 学生に公表(認定基準等)し、公平性がある：2.5」とあるため、授業、演習の評価を継続し、達成状況を把握していきたい。

V 経営・管理課程：1.14

卒業生のアンケート結果から、「15 健康管理体制に満足している：3.7」と昨年度より平均が1.0点低い結果となったが、健康診断やインフルエンザワクチン接種など例年通り行っている。低い評価の原因として、コロナの感染防止のためマスク着用の徹底を促してきたが、今年度の10月に校内で実習学生以外はマスク着用を任意にしたことが感染に対する不安について数値に反映されたと考える。

教員の自己評価の低い項目は、「38 意思決定のシステムや権限、役割機能が明確であり、かつ組織構成員の意思の反映や決定事項を周知できる：1.15」「39 組織の構成と教職員の任用、および、教職員の資質の向上についての考え方と対策は、教育理念・目的を達成するために整合性を持っている：1.15」となっている。教員の確保が喫緊の課題であるが、今後、職員の意思の反映や決定事項の周知を図っていききたいと考える。

VI 卒業・就業・進学：1.58

今年度の国家試験合格率は現役生で95.2%(83名中79名)であった。3学年の希望者には准看護師資格試験を受験させ、全員合格したため、国家試験不合格1名が准看護師として採用され、次年度の国家試験に臨むことになった。

卒業生による満足度アンケートは、「13 国家試験対策に満足している：4.5」「18 本校で学んだことに満足している：4.2」と評価を得ており、現在の体制を継続していきたいと考える。

しかし、自己評価の「54 卒業生の就職先での評価を把握し、問題を明確にし、教育を改善するために、就職先との情報交換や調査の実施などができる体制が整っている：1.33」は体制が整っていないため、今後の課題としたい。現在、1回生が6年経過したところであり、状況を把握し、教育の改善の参考にする必要があると考える。

1 学校関係者評価の目的

本校全般の運営について、教職員自らが自己点検・自己評価し、それに対して学校関係者から意見を聴き、これを踏まえて学校運営の組織的、継続的な改善に取り組むことを目的とする。

2 学校関係者評価の内容

- (1) 自己評価番号等の適切性
- (2) 自己評価結果を踏まえた要約と今後の改善方策の適切性
- (3) その他

3 学校関係者からの評価意見

葵会仙台病院 病院長 渡辺卓先生

(1) 自己評価番号等の適切性

自己評価に関しては、評価には差が出る部分もあるが、項目等に関してはおおむね良いとおもわれる。

(2) 自己評価結果を踏まえた要約と今後の改善方策の適切性

学生評価に関しては、ほぼ全項目に関して、評価が下がっていることが気になる。回答率も年を追うごとに下がっている。このことが、評価を下げているのか、見かけ上がっているのが不明である。自己評価でも教員の専門性と教育内容等、研鑽等の評価が低くなっていることが、気になるので改善を期待する。国試の合格等は現状では問題ないと思われる。

葵会仙台病院 看護部長 佐藤愛子様

(1) 自己評価番号等の適切性

多様な項目を評価しており、学校全体の成果と課題が明確になっている。また、各項目は学校評価のために適切な内容と考える。したがって、評価内容は適切であり、そこで明確になった成果や課題も妥当と考えられる。

(2) 自己評価結果を踏まえた要約と今後の改善方策の適切性

要約と今後の改善方策は、第三者から見ると、表現の飛躍はなく、根拠に基づいて丁寧に記載されている。一方、改善方策は学校内の職員が主に行っていくため、職員が適切な表現かどうか判断する方が重要と考える。

(3) その他

教職員の退職が多くあったと聞いているため、教育体制や学生に影響が出ないようこれまで以上の配慮が必要となる。